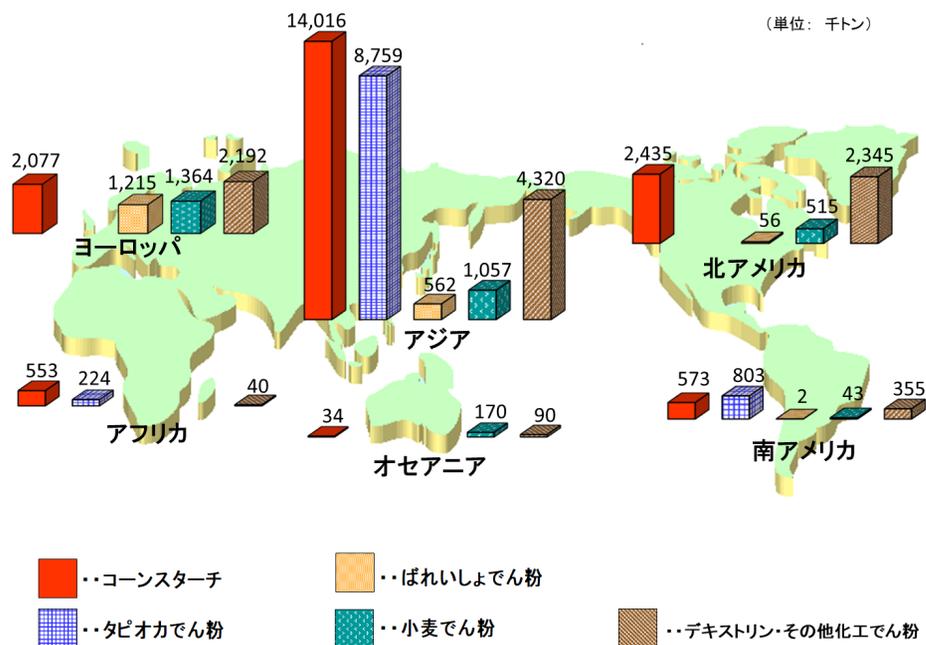


でん粉の国際需給

調査情報部 針ヶ谷 敦子、水野 崇

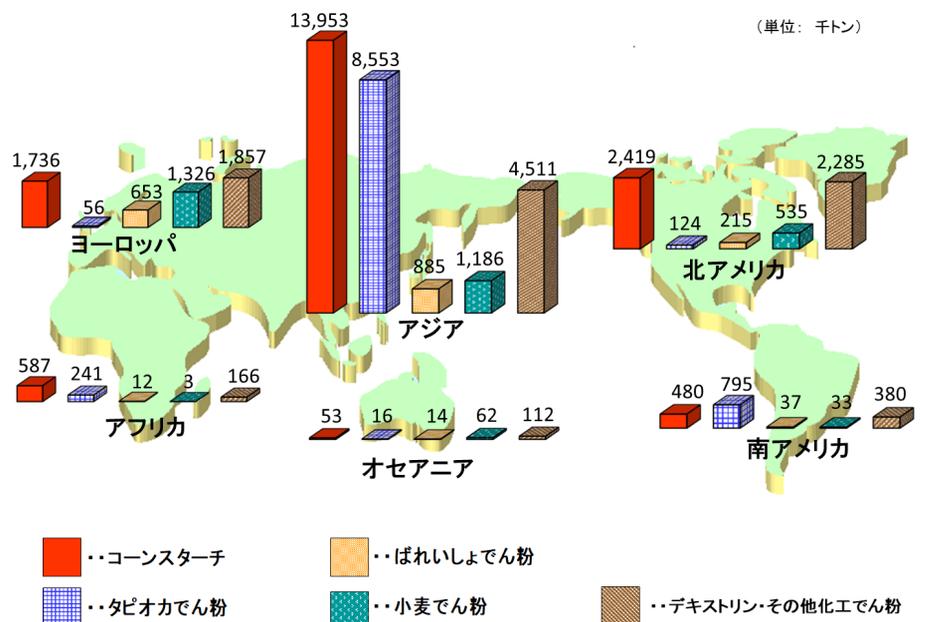
1. 世界のでん粉需給

図1 絵で見る世界のでん粉生産量（2020年）



資料：LMC International※「Global Starch Supply & Demand Research Report」を基に農畜産業振興機構作成
 (※農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)
 注：ヨーロッパには、ロシアを含む。

図2 絵で見る世界のでん粉消費量（2020年）



資料：LMC International「Global Starch Supply & Demand Research Report」を基に農畜産業振興機構作成
 注：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 トウモロコシ相場およびキャッサバ取引価格

年・月	シカゴトウモロコシ・期近 (セント/BU)			タイキャッサバ (パーツ/kg)	
	高 値	安 値	平均値	キャッサバ 農家価格	チップ 卸売価格
2015年	433.50	347.75	376.57	2.16	6.78
2016年	437.75	301.50	358.36	1.52	5.66
2017年	392.25	329.50	359.29	1.40	5.14
2018年	408.50	330.25	368.07	2.38	6.85
2019年	454.75	340.75	383.21	1.89	6.30
2020年	484.00	302.75	363.31	1.80	6.52
2021年	772.75	633.00	581.58	2.07	7.25
2021年6月	720.00	633.00	672.41	1.91	7.31
7	719.75	547.00	605.08	1.97	7.52
8	568.25	534.00	552.23	2.02	7.53
9	539.50	495.75	518.60	2.12	7.47
10	568.25	512.25	536.63	2.08	7.38
11	586.75	551.50	570.89	2.19	7.44
12	614.75	572.00	591.48	2.28	7.61
2022年1月	636.00	587.50	609.38	2.29	7.40
2	697.50	616.75	650.84	2.28	7.49
3	764.50	726.25	747.42	2.31	7.79
4	818.25	735.00	786.06	2.40	8.37
5	813.50	753.50	789.01	2.51	8.89
6	788.25	727.00	758.40		9.14

資料：CME Group、タイ農業協同組合省、タイ商務省

注1：1ブッシェル（BU）は約25.401キログラム。

注2：タイキャッサバのチップ卸売価格は、アユタヤ県とチョンブリー県の価格を単純平均したものの。

2. 日本の品目別主要輸入先の動向

本稿中の為替レートは2022年6月末日TTS相場^(注)の値であり、1米ドル=137.68円、1タイバーツ=3.93円、1ユーロ=144.17円である。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

トウモロコシ・コーンスターチ

世界

【需給動向：トウモロコシ】

2022/23年度の世界のトウモロコシ、期末在庫は前年度から微増の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年7月12日、2022/23年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表2）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は11億8590万トン（前年度比2.6%減）と前月から9万トン上方修正されたものの、過去最高となった前年度をわずかに下回ると見込まれている。国別に見ると、米国の生産量が作付面積の増加を踏まえて前月から114万トン上方修正された一方で、ロシアの作付面積減少から生産量が下方修正されたことで、これが吸収される形となった。その他の主要国の生産量はいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7708万トン（同1.2%

減）と前月から40万トン上方修正されたが、前年度からわずかな減少が見込まれている。

消費量は、世界全体で11億8524万トン（同1.1%減）と前月から104万トン下方修正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。国・地域別に見ると、EUが20万トン、ロシアが30万トンそれぞれ下方修正された。最大の消費国である中国は2億9500万トンと前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8257万トン（同8.4%減）と前月から10万トン下方修正され、前年度からかなりの程度減少が見込まれている。国別に見ると、ウクライナが前月と同様に1000万トン割れが見込まれる中で、ロシアが50万トン下方修正された。一方で、パラグアイが70万トン上方修正されたことで、これが吸収される形となった。

この結果、期末在庫は3億1294万トン（同0.2%増）と前月から249万トン上方修正され、前年度からの微増が見込まれている。

表2 主要国のトウモロコシの需給見通し（2022年7月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2020/21年度	2021/22年度 (推計値)	2022/23年度		
			(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	48.76	31.36	37.71	38.35	22.3%
生産量	358.45	383.94	367.30	368.44	▲ 4.0%
輸入量	0.62	0.64	0.64	0.64	0.0%
消費量	306.54	315.36	309.13	309.13	▲ 2.0%
輸出量	69.92	62.23	60.96	60.96	▲ 2.0%
期末在庫	31.36	38.35	35.55	37.33	▲ 2.7%
アルゼンチン					
期首在庫	3.62	1.18	1.49	1.49	26.3%
生産量	52.00	53.00	55.00	55.00	3.8%
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	13.70	14.00	14.00	2.2%
輸出量	40.94	39.00	41.00	41.00	5.1%
期末在庫	1.18	1.49	1.49	1.49	0.0%
ブラジル					
期首在庫	5.33	4.15	4.65	4.65	12.0%
生産量	87.00	116.00	126.00	126.00	8.6%
輸入量	2.85	2.00	1.30	1.30	▲ 35.0%
消費量	70.00	73.00	77.00	77.00	5.5%
輸出量	21.02	44.50	47.00	47.00	5.6%
期末在庫	4.15	4.65	7.95	7.95	71.0%
ウクライナ					
期首在庫	1.48	0.83	6.77	6.77	8.2倍
生産量	30.30	42.13	25.00	25.00	▲ 40.7%
輸入量	0.02	0.02	0.00	0.00	-
消費量	7.10	12.20	10.70	10.70	▲ 12.3%
輸出量	23.86	24.00	9.00	9.00	▲ 62.5%
期末在庫	0.83	6.77	12.07	12.07	78.3%
中国					
期首在庫	200.53	205.70	210.24	210.24	2.2%
生産量	260.67	272.55	271.00	271.00	▲ 0.6%
輸入量	29.51	23.00	18.00	18.00	▲ 21.7%
消費量	285.00	291.00	295.00	295.00	1.4%
輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	205.70	210.24	204.22	204.22	▲ 2.9%
世界計					
期首在庫	307.46	293.29	310.92	312.28	6.5%
生産量	1,129.00	1,217.87	1,185.81	1,185.90	▲ 2.6%
輸入量	185.22	179.15	176.68	177.08	▲ 1.2%
消費量	1,143.17	1,198.88	1,186.28	1,185.24	▲ 1.1%
輸出量	182.82	199.23	182.67	182.57	▲ 8.4%
期末在庫	293.29	312.28	310.45	312.94	0.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

米 国

【需給、価格動向：トウモロコシ】

2022/23年度の米国トウモロコシ、在庫率は10%台の見込み

USDA/WAOBは2022年7月12日、2022/23年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表3）。

生産量は、145億500万ブッシェル（3億6844万トン^{（注）}、前年度比4.0%減）と前月から4500万ブッシェル（114万トン）上方修正されたが、前年度からやや減少すると見込まれている。

消費量は、121億7000万ブッシェル（3億913万トン、同2.0%減）と前月から据え置かれ、前年度からわずかな減少が見込まれている。

輸出量は、24億ブッシェル（6096万トン、同2.0%減）と前月から据え置かれ、前年度からわずかに減少すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、21/22年度の国内消費量のうち飼料など向けの方修正を受けた22/23年度の期首在庫の上方修正により、14億7000万ブッシェル（3733万トン、同2.6%減）と前月から7000万ブッシェル（178万トン）上方修正されたが、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

また期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は10.1%（同0.1ポイント減）と、10%台の水準まで回復すると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり6.65米ドル（916円。1キログラム当たり36.0円）と前月から下方修正されたが、前年度からかなり大きく上昇し、12/13年度に記録した同6.89米ドル以来の高値が予測されている。

（注）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

表3 米国のトウモロコシの需給見通し（2022年7月12日米国農務省公表）

区 分	一単位	2020/21年度	2021/22年度 (推計値)	2022/23年度			
				(6月予測)	(7月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	90.7	93.4	89.5	89.9	36.4 (百万ヘクタール)	▲3.7%
収穫面積	(百万エーカー)	82.3	85.4	81.7	81.9	33.1 (百万ヘクタール)	▲4.1%
単収	(ブッシェル/エーカー)	171.4	177.0	177.0	177.0	11.1 (トン/ヘクタール)	0.0%
生産量	(百万ブッシェル)	14,111	15,115	14,460	14,505	368.44 (百万トン)	▲4.0%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	25	25	25	0.64 (百万トン)	0.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,485	1,510	38.35 (百万トン)	22.3%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,055	16,375	15,970	16,040	407.43 (百万トン)	▲2.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,068	12,415	12,170	12,170	309.13 (百万トン)	▲2.0%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,597	5,600	5,350	5,350	135.90 (百万トン)	▲4.5%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,471	6,815	6,820	6,820	173.23 (百万トン)	0.1%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,033	5,375	5,375	5,375	136.53 (百万トン)	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,753	2,450	2,400	2,400	60.96 (百万トン)	▲2.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,821	14,865	14,570	14,570	370.09 (百万トン)	▲2.0%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,510	1,400	1,470	37.33 (百万トン)	▲2.6%
期末在庫率	(%)	8.3	10.2	9.6	10.1		0.1ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.53	5.95	6.75	6.65	36.0 (円/kg)	11.8%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

【貿易動向：トウモロコシ】

4月の輸出量は7カ月ぶりに減少し、価格は続騰

米国のトウモロコシ輸出量は2021年10月から増加傾向が続いていたが、22年4月は698万7644トン（前年同月比16.3%減、前月比6.3%減）と前年同月から大幅に、前月からかなりの程度減少した。同月の主要国別輸出量は表4の通りである。

また、同月の輸出価格（FAS^{（注）}）は、1トン当たり328.1米ドル（4万5173円、同23.8%高、同7.3%高）と前年同月から大幅に、前月から引き続き300米ドルを超過し、かなりの程度上昇した。

（注）Free Alongside Shipの略。貨物を船側に付けた段階で支払われる（FOB※価格から横持ち料〈倉庫間の移動費〉、積み込み料、保険料などを差し引いた）価格。

※Free On Board：貨物を船に乗せた段階で支払われる取引条件。

表4 米国のトウモロコシ輸出量（4月）

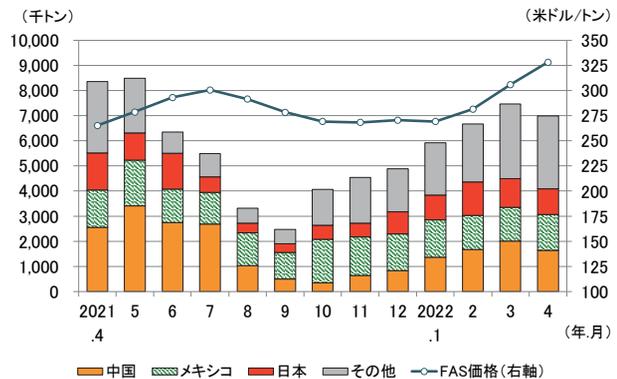
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	6,987,644	▲16.3%	▲6.3%
うち 中国	1,639,885	▲35.7%	▲18.3%
メキシコ	1,422,430	▲4.4%	6.2%
日本	1,020,059	▲30.8%	▲10.9%
カナダ	534,865	3.4倍	▲23.2%
コロンビア	506,724	69.4%	▲6.3%
韓国	347,016	▲61.5%	84.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1005.90

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考）米国のトウモロコシの国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1005.90

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

【貿易動向：コーンスターチ】

4月の輸出量は大幅に増加し、輸出価格は700米ドル台を維持

2022年4月の米国のコーンスターチ輸出量は、1万7021トン（前年同月比17.7%増、前月比19.2%増）と前年同月および前月から大幅に増加した。同月の主要国別輸出量は表5の通りである。

同月の輸出価格（FAS）は、1トン当たり735.7米ドル（10万1291円、同14.6%高、同3.8%安）と前年同月からはかなり大きく上昇しており、前月からはやや低下したものの、前月に引き続き700米ドル台となった。

表5 米国のコーンスターチ輸出量（4月）

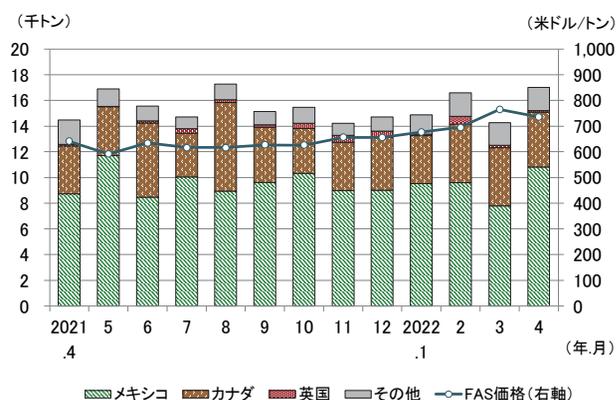
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	17,021	17.7%	19.2%
うち メキシコ	10,819	24.0%	39.0%
カナダ	4,273	14.1%	▲5.4%
ドイツ	381	7.5倍	46.5%
アイルランド	226	86.8%	58.0%
豪州	226	▲2.2%	78.0%
中国	198	7.0%	▲49.5%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1108.12

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) 米国のコーンスターチの国別輸出货量および輸出価格の推移



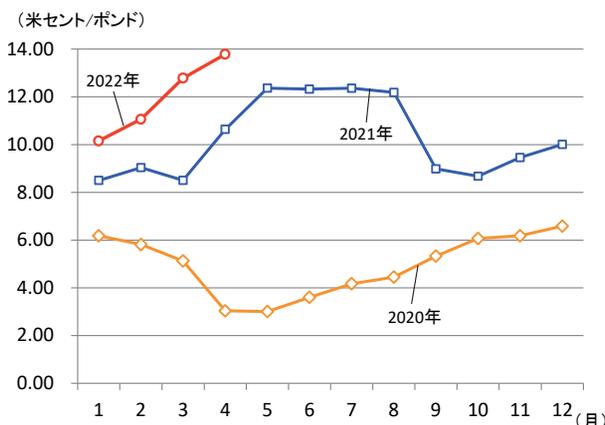
資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1108.12
 注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出货量（累計）上位3カ国を表示。

なお、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、同国の代表的市場の一つである中西部市場における22年4月の製粉業者の純費用（Net Cost）は、1ポンド^(注)当たり13.78米セント（19.0円、前年同月比29.6%高、前月比7.9%高）と依然

として前年同月から大幅に、前月からかなりの程度上昇し、高い水準となった。

(注) 1ポンドは約0.45キログラム。

(参考) 米国中西部市場における製粉業者の純費用の推移



資料：USDA/ERS
 注：価格は米国中西部市場における製粉業者の純費用（Net Cost）。
 なお、純費用については、トウモロコシ1ブッシェル当たり平均31.5ポンド（1キログラム当たり約0.56キログラム）のでん粉が含まれているものとして、計算されている。

タピオカでん粉

タイ

【生産動向】

2021/22年度のキャッサバ生産量は前年度からわずかに減少する見込み

タイ農業協同組合省農業経済局（OAE）の予測（2022年6月）によると、2021/22年度（10月

～翌9月）のキャッサバの収穫面積は1018万ライ（163万ヘクタール^(注)、前年度比2.2%減、前月同）、単収は1ライ当たり3.41トン（同1.2%増、前月同）、生産量は3469万トン（同1.1%減、前月同）と、前月予測といずれも同量が見込まれている（表6）。

(注) 1ライを約0.16ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

表6 タイのキャッサバの生産見通し

区分	—単位—	2019/20年度	2020/21年度	2021/22年度		
				(5月予測)	(6月予測)	前年度比(増減率)
収穫面積	(万ライ)	892	1,041	1,018	1,018	▲2.2%
単収	(トン/ライ)	3.25	3.37	3.41	3.41	1.2%
参考(換算値)	(トン/ha)	20.31	21.06	21.31	21.31	-
生産量	(万トン)	2,900	3,509	3,469	3,469	▲1.1%

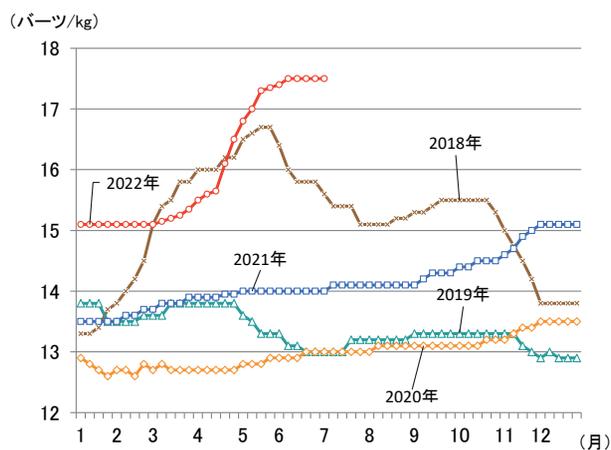
資料：OAE『農業経済2022年6月』
 注1：年度は、10月～翌9月。
 注2：1ライを約0.16ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

【価格動向】

国内価格は、17バーツ台後半を持続

タイタピオカでん粉協会（TTSA）によると、2022年7月第2週のタピオカでん粉の国内価格は、1キログラム当たり17.50バーツ（69円、前年同期比25.0%高、前週同）と前年同期から大幅に上昇し、先月に引き続き過去10年間の最高額を維持した（図3）。国内価格は20年後半から上昇傾向にあったが、22年4月以降は原料費や燃料費の上昇により急騰している。タイ農業・農業協同組合銀行（BAAC）研究・イノベーション開発センターによると、中国市場でタイ産キャッサバ製品の需要が引き続き高いことや、石油燃料価格の上昇に伴うバイオ燃料需要の増加などから、キャッサバ製品価格は今後も高い水準で推移すると予測されている。

図3 タイのタピオカでん粉国内価格の推移



資料：TTSA「Weekly Tapioca Starch Price」
注：当該週の原則火曜日の価格。

【貿易動向】

輸出価格は、前月からやや上昇し500米ドル台を維持

2022年5月のタピオカでん粉輸出量は、29万8657トン（前年同月比25.0%増、前月比5.6%増）と前年同月から大幅に、前月からやや増加した。同月の主要国別輸出量は表7の通りである。

同月の輸出価格（FOB・バンコク）は輸出量

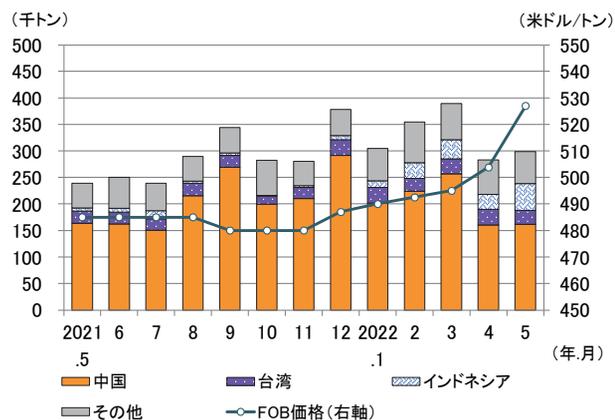
が増加する中、1トン当たり527.0米ドル（7万2557円、同8.7%高、同4.6%高）と昨年末からの上昇傾向が持続し、前年同月からかなりの程度、前月からやや上昇した。

表7 タイのタピオカでん粉輸出量（5月）

輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	298,657	25.0%	5.6%
うち 中国	161,856	▲0.9%	0.8%
インドネシア	50,939	8.4倍	79.7%
台湾	25,685	11.9%	▲11.3%
フィリピン	12,222	65.1%	96.0%
マレーシア	11,002	59.2%	▲9.2%
日本	10,936	▲13.9%	▲28.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコード1108.14
注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考） タイのタピオカでん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」、TTSA「Weekly Tapioca Starch Price」
注1：HSコード1108.14
注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。
注3：価格はバンコクのFOB価格。

ベトナム

【生産動向】

各地で2022/23年度のキャッサバ作付けが加速

ベトナムの調査会社（AgroMonitor）によると、乾季の後半から雨季の前半にかかる4～5月に、キャッサバの植え付けに最適な気温と定期的な降雨

があり、各地で作付けが行われているが、同国でもキャッサバ生産の盛んなザライ省など、キャッサバモザイク病の影響で前年から作付面積が減少している地域もある（参考）。一部の地域では、6～7月頃までキャッサバの植え付けが継続する予定である。

(参考) 主産地における2022/23年度のキャッサバ作付け状況

地域	省	概要
北部	ソンラ	好調なタピオカ価格と肥料価格の高騰により、トウモロコシ生産農家が一部をキャッサバに切り替えるなどして、3月下旬～4月上旬にかけて作付けが加速され、作付面積は前年度から増加する見込み。 3月15日現在、作付面積は2万9000ヘクタール（前年同期比16%増）と大幅に増加。
	タインホア	5月6日現在、作付面積は1万2930ヘクタール（前年同期比24.7%増）と大幅に増加。
中部	ザライ	4月上旬から適度な降雨により作付けはほぼ終了し、好天のおかげで順調に生育しているが、キャッサバモザイク病の影響でサトウキビ、サツマイモおよびタバコ栽培への転換が進み、22年の作付面積は21年から約1660ヘクタール減少して8万ヘクタールとなる見込み。
	ダクラク	キャッサバモザイク病のまん延などにより収量の減少が見込まれ、多くの世帯がサトウキビの生産に転換しているため、22年の作付面積は減少する見込み。
	コントウム	4月中旬からキャッサバの植え付けが始まり、5月上旬から雨が多く、キャッサバモザイク病の影響もなく、30～40センチメートルまで順調に生育。
	フーイエン	4月末現在、サトウキビ栽培への転換もあり、作付面積は前年から約4000ヘクタール減少し、2万5000ヘクタールにとどまる見込み。
南部	タイニン	作付面積は前年から約2200ヘクタール増加し、6万500ヘクタールとなる見込み。雨季が早く、収穫後すぐに作付けを実施したことから、4月中旬の時点で、計画の6割を超える4万ヘクタール近くの作付けを終えたと推定。

資料：AgroMonitor作成

【貿易動向】

5月の輸出量は増加する中、輸出価格は6カ月500米ドル台を持続

民間調査会社であるAgroMonitorによると、2022年5月のタピオカでん粉輸出量は、18万156トン（前年同月比28.7%増、前月比15.0%増）と前年同月から大幅に、前月からかなり大きく増加

した。同国の主要国別輸出量は表8の通りである。

同月の輸出価格（CFR^(注)・中国向け）は、1トン当たり511米ドル（7万354円、同8.3%高、同0.2%安）と前年同月からかなりの程度上昇して前月並みとなり、6カ月連続で500米ドル台となった。

(注) Cost and Freightの略。輸入港までの海上運賃を売主が負担し、危険負担は物品を引き渡した際に売主から買主に移転される取引条件であり、コンテナ輸送貨物に使われることが多い。

表8 ベトナムのタピオカでん粉輸出量（5月）

輸出先	輸出量（トン）	前年同月比（増減率）	前月比（増減率）
合計	180,156	28.7%	15.0%
うち 中国	171,630	28.4%	20.8%
台湾	4,034	38.5%	42.6%
フィリピン	760	▲24.9%	▲77.8%
韓国	554	14.6倍	55.6%
米国	437	85.2%	▲47.9%
マレーシア	384	4.5倍	▲39.0%

資料：ベトナム関税総局のデータを基にAgroMonitor作成

注1：HSコード1108.14

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) ベトナムのタピオカでん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：ベトナム関税総局のデータを基にAgroMonitor作成

注1：HSコード1108.14

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

注3：輸出価格は、中国向けCFR価格。

ばれいしょでん粉

E U

【貿易動向】

輸出価格は700ユーロを突破

2022年4月のばれいしょでん粉輸出量^(注)は、2万5758トン（前年同月比20.7%減、前月比13.7%減）と前年同月から大幅に、前月からかなり大きく減少した。同月の主要国別輸出量は表9の通りである。

また、同月の輸出価格（FOB）は、1トン当たり702ユーロ（10万1207円、同21.5%高、同4.3%高）と前年同月から大幅に、前月からやや上昇し、20年1月以来、2年3カ月ぶりに700ユーロ台となった。

(注) EU27カ国による輸出。輸出先の不明なものを除く。

表9 EUのばれいしょでん粉輸出量（4月）

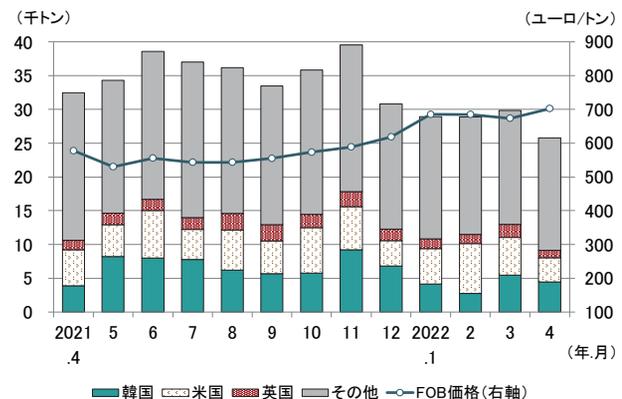
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	25,758	▲20.7%	▲13.7%
うち 韓国	4,450	14.2%	▲18.5%
米国	3,595	▲32.9%	▲36.0%
日本	1,623	94.6%	2.3倍
メキシコ	1,388	3.9倍	15.3%
ベトナム	1,334	27.0%	▲5.5%
中国	1,318	▲60.3%	88.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1108.13

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) EUのばれいしょでん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1108.13

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

注3：輸出先の不明なものを除く。

コラム 欧州主要国のでん粉原料用ばれいしょ生産動向ードイツおよびオランダ編ー

世界最大のばれいしょでん粉生産地域である欧州では、ドイツ、オランダ、デンマークおよびフランスの4カ国が主産国として位置付けられている。本コラムでは、そのうちドイツおよびオランダのでん粉原料用ばれいしょの生産動向を紹介する（コラムー表1）。

1. ドイツ

ドイツのでん粉原料用ばれいしょの作付面積は2017年から20年まで増加傾向で推移し、21年までの5年間で1割程度拡張した。ドイツばれいしょ産業連盟 (UNIKA) によると、これは同国で主要ばれいしょでん粉製造企業3社が原料確保を目的に、生産者との契約数量を拡大したことが要因とされる。

21年は、前年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の影響で需要が減少し、収益が上がりなかったことから、作付面積は6万ヘクタール（前年比2.0%減）、生産量は252万トン（同1.1%減）と減少した。

2. オランダ

オランダのでん粉原料用ばれいしょの作付面積を見ると、過去5年は4万ヘクタール半ばで安定して推移している。同国では2018年夏に過去20年で最悪とされる干ばつが発生し、翌年も乾燥した気候により生産量、単収ともに落ち込んだものの、21年は生産量186万トン（同1.6%増）、単収は1ヘクタール当たり41.3トン（同1.5%増）と回復傾向にある。

コラムー表1 ドイツおよびオランダのでん粉原料用ばれいしょ作付面積、生産量および単収の推移

（単位：千ha、千トン、トン/ha）

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
ドイツ	作付面積	54	57	57	62	60
	生産量	2,224	2,360	2,401	2,549	2,520
	単収	41.6	41.7	42.1	41.4	41.8
オランダ	作付面積	44	45	45	45	45
	生産量	1,894	1,546	1,699	1,831	1,860
	単収	43.0	34.4	37.8	40.7	41.3

資料：UNIKA、オランダ統計局（CBS）

注1：でん粉原料用ばれいしょの単収は地域、年、品種などにより大きく異なり、統計調査は行われていないことから、作付面積と生産量を基に農畜産業振興機構で算出。

注2：2021年は暫定値。

3. ロシアのウクライナ侵攻による影響

欧州のばれいしょ専門誌編集者によると、ロシアのウクライナ侵攻の欧州ばれいしょ市場への影響について以下のような点を挙げている（コラムー表2）。

コラムー表2 ロシアのウクライナ侵攻の欧州ばれいしょ市場への影響

項目	主な影響
作付面積	ばれいしょと比較して、小麦やトウモロコシの取引価格が高いことから、他作物への転作が進み、欧州の2022年のばれいしょ作付面積が2.5%減少すると見込まれる。
生産費	欧州における肥料価格は前年から倍増し、1トンあたり1000ユーロ（14万4170円）程度まで高騰している。ばれいしょの生産コストの高さも、他作物への転作を後押しする可能性がある。
労働力	西欧諸国のばれいしょ生産は、ウクライナなどの東欧からの季節労働者に頼っているため、労働力の確保も課題となる可能性がある。
物価上昇	ウクライナが世界最大のヒマワリ油の産地であることから、今後、価格高騰と供給不足が起こると予想され、フライドポテトなどのばれいしょ加工業者に影響がある。

資料：農畜産業振興機構作成

化工でん粉

デキストリンおよびその他の化工でん粉（以下「化工でん粉」という）の主要輸出国による主要仕向け先国別輸出量および輸出価格は、以下の通りである。

タイ

【貿易動向】

5月の輸出量は前年同月からやや、前月からかなりの程度増加

2022年5月の化工でん粉の輸出量は、9万6097トン（前年同月比4.6%増、前月比6.0%増）と前年同月からやや、前月からかなりの程度増加した。同月の主要輸出先別の輸出量は表10の通りである。

表10 タイの化工でん粉輸出量（5月）

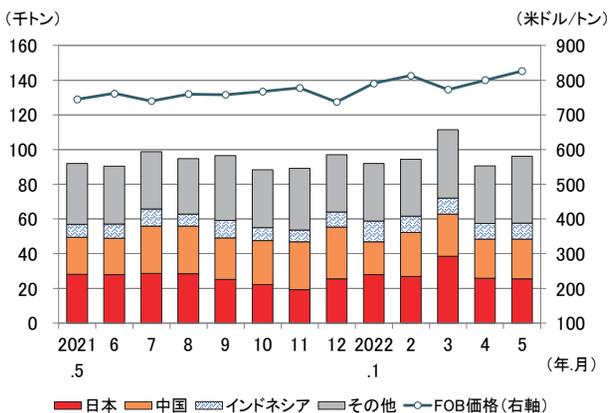
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	96,097	4.6%	6.0%
うち 日本	25,431	▲9.9%	▲1.5%
中国	22,902	7.6%	1.5%
インドネシア	9,334	25.8%	2.5%
韓国	9,080	9.9%	10.8%
米国	5,435	2.0倍	85.1%
台湾	3,028	47.1%	19.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考） タイの化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



米国

【貿易動向】

4月の輸出量は前年同月からやや増加し前月並み

2022年4月の化工でん粉の輸出量は、2万7899トン（前年同月比4.8%増、前月比0.2%減）と前年同月からやや増加し、前月並みとなった。同月の主要国別輸出量は表11の通りである。

表11 米国の化工でん粉輸出量（4月）

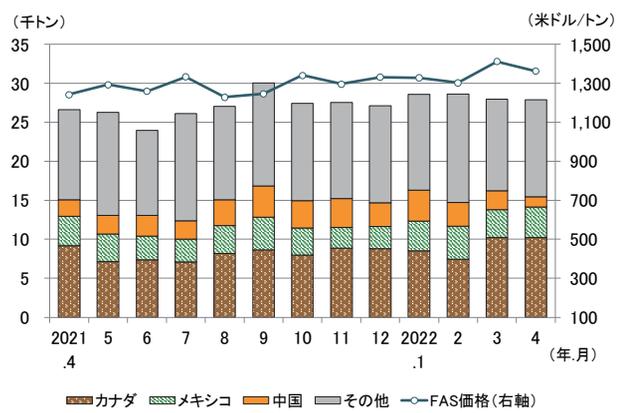
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	27,899	4.8%	▲0.2%
うち カナダ	10,207	10.8%	▲0.3%
メキシコ	3,962	5.4%	11.5%
コロンビア	1,327	65.0%	44.6%
中国	1,311	▲37.3%	▲46.2%
ドイツ	1,215	32.1%	12.4%
日本	895	▲8.5%	▲22.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考） 米国の化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



中国

【貿易動向】

5月の輸出量は前年同月からかなりの程度減少したものの、前月からかなりの程度増加

2022年5月の化工でん粉の輸出量は、9054トン（前年同月比7.1%減、前月比8.5%増）と前年同月からかなりの程度減少したものの、前月からかなりの程度増加した。同月の主要輸出先別の輸出量は表12の通りである。

表12 中国の化工でん粉輸出量（5月）

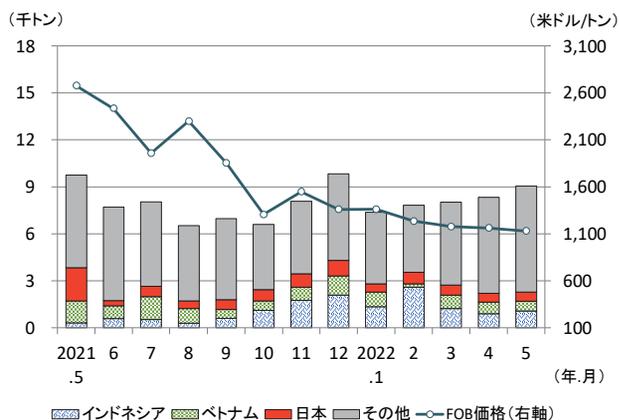
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	9,054	▲7.1%	8.5%
うち フィリピン	1,609	50.7%	5.2%
インドネシア	1,081	3.3倍	22.0%
ベトナム	618	▲55.9%	▲17.5%
台湾	598	▲9.5%	49.1%
日本	581	▲72.4%	▲0.9%
マレーシア	510	▲19.9%	▲31.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考）中国の化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

EU

【貿易動向】

4月の輸出量は前年同月および前月から大幅に減少

2022年4月の化工でん粉の輸出量^{（注）}は、4万4280トン（前年同月比23.5%減、前月比17.1%減）と前年同月および前月から大幅に減少した。同月の主要輸出先別の輸出量は表13の通りである。

（注）EU27カ国による輸出。輸出先の不明なものを除く。

表13 EUの化工でん粉輸出量（4月）

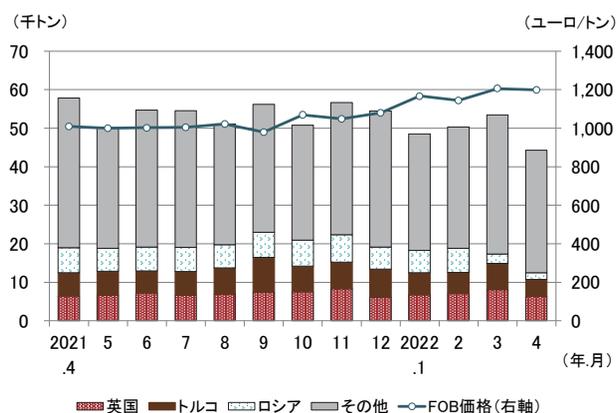
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	44,280	▲23.5%	▲17.1%
うち 英国	6,364	▲1.9%	▲21.0%
中国	4,520	▲48.3%	47.7%
トルコ	4,440	▲26.3%	▲35.3%
日本	3,944	7.8%	16.4%
韓国	3,103	▲14.6%	23.0%
米国	2,262	12.1%	▲34.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考）EUの化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

注3：輸出先の不明なものを除く。

豪州

【貿易動向】

4月の輸出量は前年同月からわずかに増加したものの、前月から大幅に減少

2022年4月の化工でん粉の輸出量は、3108トン（前年同月比0.5%増、前月比24.9%減）と前年同月からわずかに増加したものの、前月から大幅に減少した。同月の主要輸出先別の輸出量は表14の通りである。

表14 豪州の化工でん粉輸出量（4月）

輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	3,108	0.5%	▲24.9%
うち 米国	2,253	41.9%	▲6.0%
日本	710	▲44.3%	▲50.3%
ニュージーランド	127	▲9.9%	▲46.6%
台湾	18	0.0%	NA

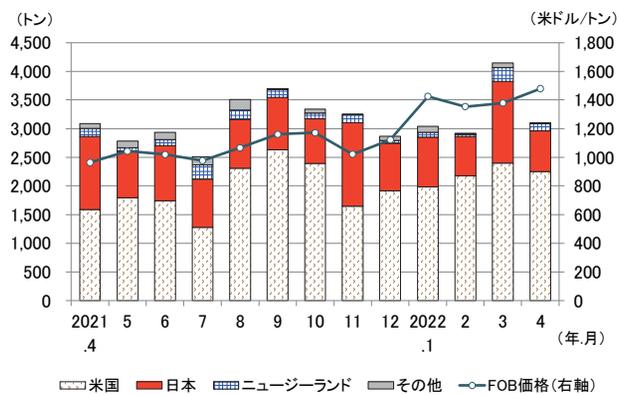
資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位4カ国を表示。

注3：「NA」は、事実不明なもの。

(参考) 豪州の化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。